

## 特 集

# Conversion Surgery 進行消化器がんのトータル治療戦略

近年の診断機器の進歩と検診システムの充実により、がんの早期発見・治療が可能となる一方、進行した状態で発見されるがんは依然として多数を占める。これら進行・再発がんに対し、化学療法、分子標的治療、放射線治療、さらには免疫治療などによる集学的治療が展開され、手術療法においても neoadjuvant therapy や術後補助療法などを組み込んだ集学的治療により、その予後は改善してきている。最近では、当初切除不能と診断された症例に対し化学療法、分子標的治療、放射線治療を施行した結果、外科的切除が可能となるケースもみられるようになり、実際に多くの施設でこのような conversion surgery が施行され、治癒が得られる症例も存在する。

本特集では、conversion surgery が施行可能であるような症例に対して、多診療科で連携をとりつつ、外科医としてどのような戦略で臨むのか、具体的に述べていただいた。本特集が、高度進行がん症例における治療成績と QOL の向上に貢献することを切望する。